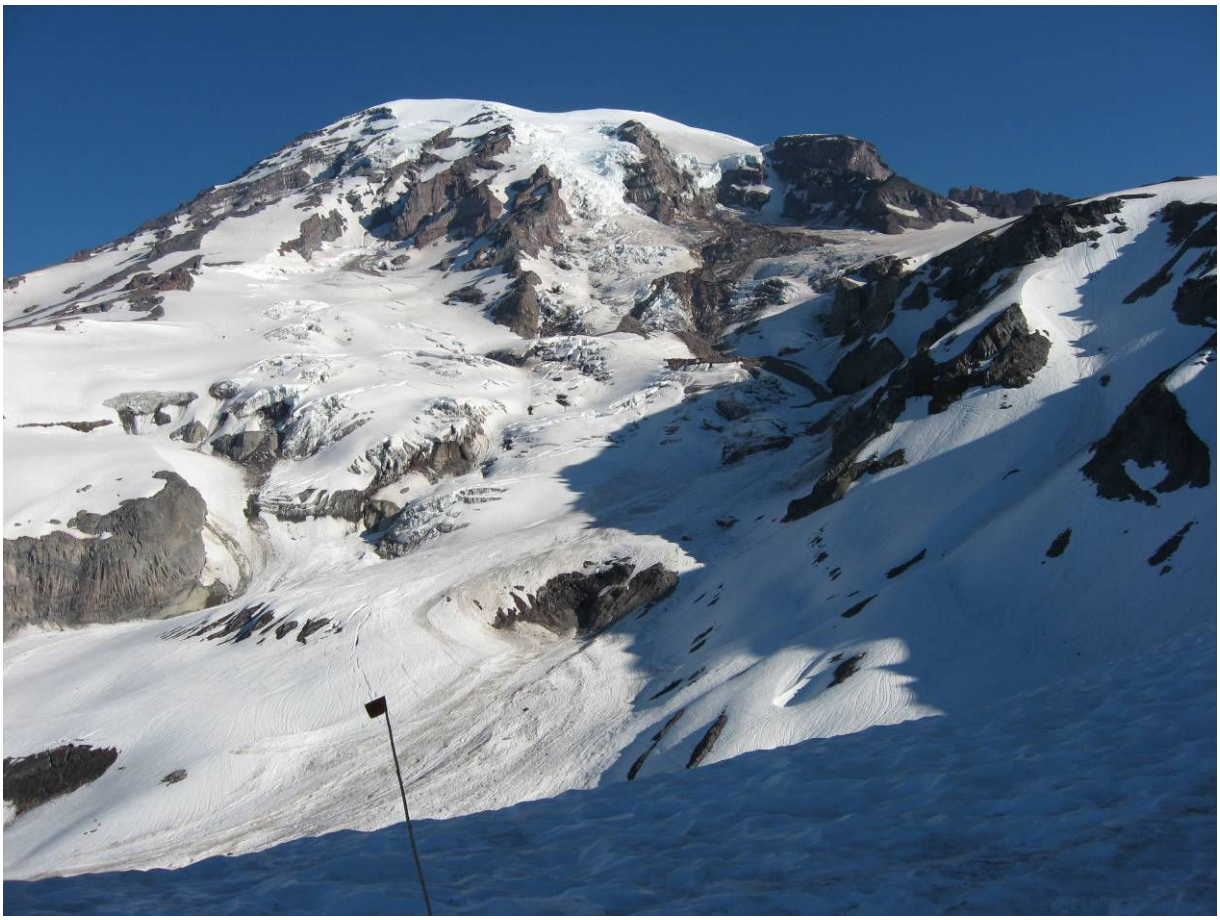
MT.レーニア（４３９２ｍ）登山報告

アメリカワシントン州　カスケード山脈最高峰



「美しい朝の Mt レーニア」

期　間　　２０１１年7月３０日～８月７日
参加者　　福澤卓三（６２歳）　　石川　誠（６８歳）
結　果　　Ｃａｍｐ Ｍｕｉｒ（３１０５ｍ）迄行動し登頂を断念する。

行動概要

７／３０日　成田集合１４：００　デルタ航空　ＤＬ　２９６便搭乗　１６：１０発

成田へは横浜 YCAT からバスで成田に向う、シニア割引で片道２０００円
荷物は昨日成田へ日航 ABC の宅急便で送り込む。福澤君は 13:30 分に既に成田に到着していた。早速デルタ航空のカウンターで搭乗手続きを行なう。荷物の重さが気になったが難なくクリアーする。荷物を預け出国手続に入る。

アメリカに入るにはｅチケット（搭乗券）、パスポート、ESTA(アメリカ電子渡航承認システム)が必要となり、窓口は丁度夏休みと重なり短期留学する子供達と見送る家族達でごった返していた。福澤君はリチウム電池のことを心配して職員に問い合わせていたが、チェックが入れば窓口で呼ばれるとのことゲートでは、オーバーブッキングのせいか搭乗券を譲って欲しいと職員が呼びかけている。５００ドル＋ホテル代付きとのこと時間に余裕があれば美味しい話であろうか。
ノープロブレムである。何かと心配していた搭乗手続きも、割とスムースに終わり一安心座席は窓側 2 列のシートに収まる。

機内では離陸後、飲み物、夕食、夜食などサービスが振舞われる。エコノミーなので座席は狭いが、窓側 2 列なので幾分助かる。

７／３０日 シアトル空港着９：０２分到着ーホテルﾁｪｯｸｲﾝ１０：４０分
午後には買い物、パレード見学

「アメリカ３軍と海兵隊旗の行進」

日本との時差 16 時間　日付変更線の関係でシアトル到着は同じ 7 月 30 日の午前９：０２分到着。着陸前には窓から真っ白に輝いたタコマ富士(mt レーニア)が見え、程なく

シアトル・タコマ空港に到着する。入国審査はテロ対策として左右の手指４本と親指の指紋採取、顔写真の撮影と厳しい。荷物検査はそのまま。無事通関手続きも終えて、預けた荷物を受け取り、地下鉄に乗って３階タクシー乗り場へ。なんだかトントン拍子にシアトルの土を踏む。アメリカでおなじみのイエローキャブに乗車、今日の宿であるダウン

パレード「アラスカ航空フロート」

タウンの「ラ・キンタイン＆スイーツシアトルダウンタウン」に 10：４０分チェツクインする。ちなみにタクシー料金はチップ含め４５ドル。

午後から歩いて２０分程にある登山スポーツ店「REI」に燃料用ガスボンベを買いに行く。
商品の値段は関税が無い分日本より幾分安いようである。ダウンタウンを散策しながら「パタゴニア」を覗いたりした。福澤君はジャケットなどいろいろと購入していた。

私は土産など見繕い帰りに購入する品定めをしながら散策する。
シアトルは、コーヒーでおなじみのスターバックスやエデイバウアーなどｱｳﾄﾄﾞｱｰ用品販売の発祥の都市であるとのこと。夕方近く４番ストリートの沿道にたくさんの人が椅子など持込座り込んでいる。今夜夏のパレードがあるとのことであつた。時差もあり又夜８時を回ってもまだ周りは明るい。そうこうしているうちにパレードが始まる。
先導は、ハーレダビットソンに跨る警察官のけたたましい爆音に続き続々と綺麗に着飾ったスチュアーデスが踊りながらのパホーマンスやハワイ州の行進では馬に跨り、長いフラドレスに着飾った女性達の行進、続々ときらびやかなフロートの行進が続いた。中でも圧巻はアメリカ３軍(陸海空)とマリーン(海兵隊)の軍旗を持つ隊員の行進では、沿道に座っていた見物者が全員立ち上がり拍手で迎えるのである。さすがアメリカという思いで見物した。パレードは続々と続き 50 組近く続いたのではないか。この様なパレード日本では余り見たこともないので珍しかった。こんなことで夜食も摂れず屋台のホットドッグを食べてホテルに戻る。

「ホテル前からのカスケード山群　」

７／３１日 ホテル８：３９分発ーパラダイスイン１１：２４分着

ホテルでパンとコヒーなど簡単な朝食を済ませ、昨日８時に現地旅行会 AZUMANO の横部さんが英語訛りの日本語で挨拶し、迎えに来てくれる。米国滞在３５年岡山県出身の方で 52 歳日本語の会話で救われる。

８：３９分我々の荷物を積んで今日の宿泊予定地で

ある、パラダイスインへと車を走らせる。アメリカは当然のこと左ハンドル、右側通行で運転するにはその切り替えに苦労するだろう。街の郊

「ホテルエントランス　」

「　ホテル「パラダイスイン」

外から高速を利用し、車は mt レーニア国立公園のテリトリーに入る。公園入口にはゲートがあり、幾許かの入園料を支払い入園する。周りは大きな樹木に囲まれ自然公園の体をなしてくる。途中氷河跡を見るが今は氷河も後退し、モレーンを見るばかりである。ここにも地球温暖化の影響が顕著に現れていることを見せ付けられた。

車は徐々に高度を上げ宿泊地のパラダイスイン（標高１６８０ｍ）に到着。此処には１軒しか宿泊施設はなく、予約を取るのに苦労するとのことであった。目の前に mt レーニアが迫り圧巻である。今年は雪が多く駐車場の前まで雪が残っていた。

「アメリカ国旗が翻る」

早速チェックインし、今日はあいにく個室しか空いていないので別々に部屋を取り、早速登山届けを出しに「クライミングインフォメーションセンター」に向かいます。登山許可手数料は、15 ドル/1 人で事前に作成した登山日程、人数、緊急連絡先、登山コース、装備、食料を指定の用紙に記入、申告します。山の状況、排泄物を入れるビニール袋を受け取り、グッドラックで手続終了。午後は明日の登山に置いてゆく備品を仕分けし、午後は写真を撮りながらゆっくりするがイマイチ時差の関係で昼夜逆転し、頭の中は、スッキリしない。夜は午後８時になっても明るく、体内時計の調整に苦労する。

ホテルは各自一人部屋、バス、トイレはない。ここに置いてゆく荷物と登山用装備を分けて明日に備える。

８／１日　ホテル６:１０分スタートーcamp ミュアー15:00 着ー福沢迎えー１７：３０分到着

眠っても頭が冴えてなかなか寝付かれない。早朝の食事は、用意したパンとチーカマ、スープで済ませ、寝ても居られないので６時１０分出発する。ヘッドランプをつけ踏み跡を辿り歩き始める。

「　５月を思わせる雪の山並み。」

道は多少凍っており、歩きやすい。
　林の中を小さなフラッグと踏み跡を辿りながら上部へ、周囲が明るくなると多少踏み跡が少なくなったので右により過ぎたようである。
　福澤に左にある遥か上のトレースを指示し雪面を上がる。途中マーモットが雪面を朝の散歩をしている。まだ陽が登っていないので涼しい中、登行を続ける後続パーティーはまだ見えない。
　やがて正規なルートと合流する。下には何パーティーか続いている。
今年は雪が多いせいか登山道は全て雪上にフラッグが刺してあり登りやすい様だ。雪面が切れた岩場には花が咲き綺麗な水も流れている。適当に休みながら高度を上げる。頂上から落ちるウイルソン氷河、ニスクワリー氷河のセラック帯が眼前に迫ってくる。時折雪崩、落石の音が聞こえている。やはり緯度が高いため、日本では見られない氷河が素晴らしい。慣れた格好の二人連れが対岸のルートを登攀するためか、氷河に下りていった。
　午前中は何とか順調に登っていたが午後になると寝不足、時差ぼけ、荷の重さで登る足並みも遅くなる。もう直ぐ着くだろうと期待しながら歩いているが上のステップにつくと又、次のステップが表れ、精神的にも疲れる。

福澤君

石　川

　標準時間も越えて登る速度も遅くなり、段々休みを取る時間も増える。福澤君の荷物もかなり重く遅れる。今日の宿泊地「キャンプミュア」に私がついたのが１５：００分９時間も掛かってしまう。外人の登山者が your friend very tired help you と伝えてくれる。一旦荷物を置きサブザックを持って福澤を迎えに又降りる。30 分ほど降り、荷物を分けてのんびり二人で上り返す。本当に眠たい。キャンプ地に二人が着いたのは１７:００近くとなった。道のそばにはヒドンクレバスが口を

「　ガイド登山の人たちが雪上訓練をしていた。」

「振り返ると mt アダムス」

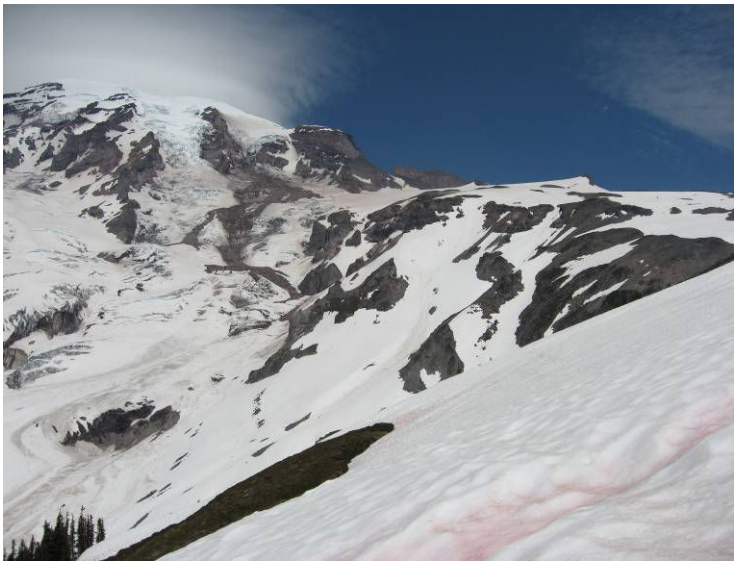
開け、warning の警告板が掛かっている。此処には、小屋が 2 つほどあり、一つはレインジャー用一つはガイド付き登山者用となっている。
　テント場は、ガイド付き登山者が宿泊する大型テントが常設され、我々は一段下の場所に設営する。気温は風が抜けるので多少寒いが防寒着を付ける。夜は牛丼、久し振りのご飯である。

８／２日 camp ミュアー撤収１０：００発ーパラダイス１５：００着　下山届け提出

　夜中にトイレに起きる。日本なら差し詰め傍の雪面にする処だが、常設トイレまで出向く。やけに風が生温かい。ガイドに連れられた 10 人ほどのパーテイーが既に出発していて、雪渓をトラバースし、ガリーの手前で夜行列車の様にヘッドランプの光が並んでいる。もう出発していたのだ、時計は午前 1 時を指している。テント内は狭く何故か時差の関係かなかなか寝付かれない。柴崎のこと、これからの行動のことなど悶々としている。

「頂上に笠雲」

　ガイドは安全を期して夜中に出発してゆく。われわれはまだシュラフの中、昨日の行動時間の遅れなど、福澤君も寝られたのだろうか?
　どうもこれからの行動を考えるとルートに、セラック、シュルンドなどと考え、福澤と二人でアンザイレンして全行程 12 時間を安全に登攀することか出来るのだろうかと考えてしまう。
　自分の気持、モチベーションが上がらないことを福澤に告げる。これからの先のルートは技術的にはクリアーできると思うがどうも気分が乗ってこない。こんな状態では登る気分にはならないと。
　福澤君もエッと意外な反応で有ったが、折角此処まで来て登れないのはと残念な思いでいろいろ腹案を提示するが、こんな時 3 人 4 人ノパーティーならばメンバーを変えて頂上を目指すことも出来るのだが、如何にせん 2 人では致し方ない。1 人で行って貰う訳には行かない。福澤君も納得いかない様だが前日の行動の遅さ、これからの行動全般を踏まえて福澤君には申し訳ないが登頂断念と決定する。
　決定した後も何度か話し合いをするが、ここで事故ったら会にも家族にも社会的にも迷惑を掛けることになり、理解してもらう。単なる登攀ならば確保しながらのスタカットでもあり、



「右の雪原を登って camp ミューアへ」

「　可愛らしいマーモット」

　問題は少ないがコンテニアスでロープを結びながら全行程を歩くとなると、ひとりがシュルンドに落
　ちた場合とめることが出来たとしても、自己確保し、自己脱出するためのアンカーが難しい、日本では富士

山ではスノーバー等で自己確保し、スターカットで行動するもので雪面をアンザイレンしながら登行することには長けていない。

「頂上には笠雲　」

そんなこんなで断念することを理解してもらう。問答もひとしきり、朝飯でも食うかとコンロを炊くがガスが冷えているのかウントもスントモ火が

「レインジャーと一緒に」

点かないのである。上空には雲が増えてきて視界も頂上が隠れてくる。撤退と決まれば早いところ安全限界地点まで降ることにして、テントの撤収を始める。隣のアメリカ隊３人組は今日は行動しないようだ。グッドラックと握手して別れる。

東洋系４人組も徹集を始めた。トレースのある雪道をのんびり降る。前方には、ｍｔアダムスが見えている。途中から後ろを振り向けば頂上には見事な笠雲がかかり見えない。雪解けしたモレーンの場所では、マーモットが岩塩であろうか盛んに土を舐めている。

写真を撮っても逃げる様子もなく、平然として危害を加えない人間を信頼しているのだろう。

ｍｔレーニアは雄大で素晴らしい山である。ルートも放射状に雪面を利用し、遥か高みを登高しているパーティーが米粒の様に見える。トレースを辿りながら時折高山植物を撮りながらのんびりと降ってゆく。草の上にザックを置いて休憩していると女性のレインジャーが我々に注意をして来る。

草の上に荷物を置くのは良くないと。彼らは国立公園を管理している国家公務員としてレンジャーとしてプライドを持って仕事をしている。

「雪解けを待って咲く花々　」

その服装も格好が良い。怒られたついでに一緒に写真を撮ってもらう。彼らは陽気で明るく、声も大きく。溌剌として自信を以って登山者を指導している。日本の自然保護に対してもこうありたいものだと感じた。下のパラダイスが

見えてからもなかなか着かない。下からはトレイルを歩くハイカーの人たちも増えてくる。それにしても日本の５月を思わせる雪の量である。

登山指導センターで下山届けを出しに行くと無事下山できて良かったと喜んでくれた。登頂できな

かっただけに少し複雑な思いだが、彼らは「グッドラック」と明るく声を掛けてくれる。

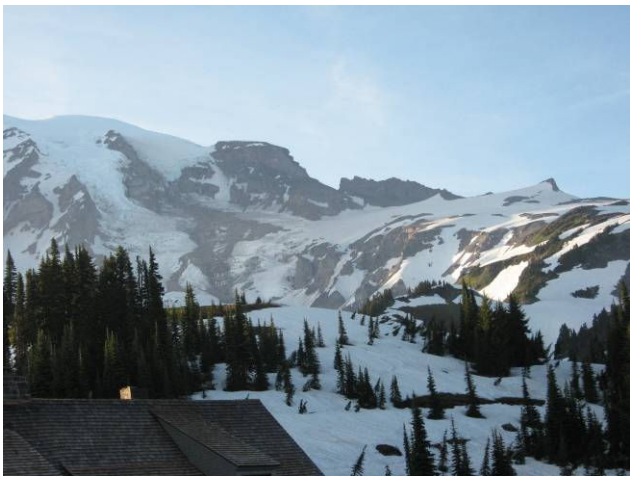
「頂上は遥か」

今日の宿泊地が決まっていないので、キャンプ地は何処かと聞くと２０分ほど歩くと「クーガーロック」というキヤンプ場を教えてくれる。バスも運行しているとのことだった。

ホテル「パラダイスイン」に戻って預けてある荷物を取りに行くと、日本の方ですかと声を掛けられる、AZUMANO の山本さんというツアーガイドの方で、こちらとしては渡りに船、今夜の部屋は空いていないか聞いてもらうと運よく空き室があるとのこと、早速今日、明日の部屋を予約する。これで今夜の寝場所は確保できた。

日本ならちょっと河原に天幕を張って寝てしまうところだが、アメリカの国立公園内では、指定場所以外ではキャンプが禁止されている。

下山祝にホテルの食堂でディナーと洒落込むがこちらの話す言葉が中々通じない、最初のウエイターがｏｋと引っ込むが、今度は女性のウエイターに代わって注文は何かと再度聴きに来る始末、何だ判ってねえんじゃねえかと呆れるが、無理もない。向こうでも言っていることだろう。メニューを見て適当に読める単語を指しながら注文する。サーモンと書いてあるからサーモンの刺身でも出てくるのかと期待したが、サーモンが混じったガンモドキのようなものが出てきて驚いた。あとはモッツエレラチーズをトマトで挟んだ料理とジャガイモを練ったもの、人参、キュウリを焼いたものなんともアメリカの料理は理解しがたかった。其の量も優に二人分はある。それなら単純にステーキでも注文すれば良かった思うのだが。



「　夕暮れの山並み」

８／３日停滞　ホテルステイ

朝は日本から持ってきた米と味噌汁、緑茶おかずにソーセイジなどを食べる。コンロも下に下りてきて寒さから開放されたせいか点火するようになった。午前中、午後はホテル内の土産物店で孫の T シャッ、レインジャーのベストや帽子などを買う、福澤君もいろいろと買っていた。ひとしきり買い物が済むと隣のカフエによってコーヒーやチーズケーキを注文し、外のテラスて食べる。周りには観光客や、孫とトレッキングに来た家族、観光客がひしめいている。日陰で読書などして時間を過ごす。

「自然教室に参加する子どもたち」

時折風景を撮りながら時間を過ごす。夕方は、ビジターセンターのダイニングルームに出向いて夕食を食べる。夕食といってもピザやベーグルでどうもスッキリしない。お陰で売店の伯母ちゃんとも顔なじみになり、何処から来たのかとか、冗談を交わす。そして中々暗くならない一日を過ごす。パラダイスも滞在していると退屈で地獄である。

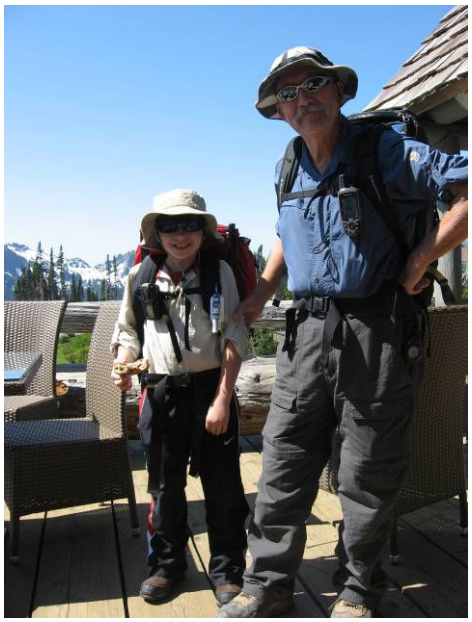
電話は、携帯電話でも直接日本と通話は可能なのだが、あいにくこの地は圏外なので通話が出来な

かった。

８／４日　パラダイス１９：００発ーシアトル　ホテル「レッドルーフ」２０：００着

電話は、売店でテレホンカードを買い日本に通話する。これがまた、難題で何回か試みてやっと通話が出来たので安心した。このカードは、1 枚 20 ドルで日本と通話をしたら 1 回で終わってしまった。このカードを利用して AZUMANO の社長と連絡を取り、今日このホテルをキャンセルし、シアトルに戻りたい。その為、シアトルのホテル確保と出迎えの車を寄越すように依頼する。30 分後エージェントから電話が入り、ホテルの確保は出来た。しかし迎えの車は週末で混んでいるので夕方 6 時頃になるとの連絡を受ける。

「カフエで出会った子供達」



「孫と一緒にトレッキング」

午後 6 時まで時間が有るので思い思いに時間に過ごす。テラスでお茶を飲んだり、読書をしたりと優雅な時間を過ごす。

夕方 6 時過ぎ横部さんが迎えに来る。山はまだ明るい見慣れた　ｍｔレーニアともお別れ、いつか近いうちに体制を整え挑戦したいものだ。先日来た道を辿り一路シアトルへ。途中夕日に輝く　ｍｔレーニアが美しかった。

夕飯は、途中の街にあるファミリーレストラン「アップルビー」でステーキを注文し、皆で食べる。付け合せのジャガイモの大きいこと、ボリュームもあり、残してしまう。今日の宿「レッドルーフ」に着いたのは午後 10 時を回っていた。

「ジャズフェステイバル」

８／５日　ホテル９：３０チェックアウトーシャトルバスでホテル「ホリデイン」に１０：１０分チェックインする。

朝食はホテルで済まし、今日の宿空港近くの「ホリデイン」にシヤトルバスを利用し、移動する。

午前中からモノレールでシアタツクエアポート～終点のウエストレイクまで乗車、料金は 2.75 ドル 30 分位乗ったであろうか?　途中「スタジアム」という駅があり、目の前に一郎が所属するマリナーズの本拠地セフィシコスタジアムがあった。

シアトル市街の見物、公園の広場ではサマーコンサートが開かれていてしばし観覧する。

次々と黒人グループのジャズなどを聴きながら歌声の素晴らしさにしばし聞きほれる。聴衆は皆其の音楽に併せて手拍子や身体全体でスイングしながら、前に踊りだしている。その歌声に酔いしれているのである。

その後昼飯を食べにシーフロントに向う。ここで御互い好きな場所に行くため別れ、私はまた「パタゴニア」に行って孫の水着を買ったりギャップを覗いたりした。そしてモノレールでシータックエアポートまで乗ってホテルに帰る。

福澤君もいろいろと街中を散策し、地下鉄で夕方７時頃ホテルに戻る。

「その歌声が心を揺さぶる」

８／６日ホテル１１：００シャトルバスでシアトル空港へ１１：３０分着－１２：４０頃空港出発

「　シーフロントでの掛けチェス」

福澤君が遅いので見に行ったところ手荷物に入っていたナイフを没収されてしまう。入国の時はスムースに行ったので安心していたが、出国審査が厳しく大変であった。帰りのデルタ航空 295 便は荷物の搬入に時間がかかり１時間近く出発が遅れる。後は成田まで機上の人として映画や音楽を聴きながら過ごす。丁度山岳映画「岳」を上映していたので見ながら退屈な時間を過ごす。

８／７日成田国際空港１６：３５分到着解散

入国審査、荷物検査手続は全て質問のみでオール OK。無事成田に到着する。

私は YCAT で横浜までバスで自宅へ、福澤君もバスで池袋まで帰る。

今回のアメリでの山行は時差ぼけに影響され、出発前の忙しさに登攀意欲も衰退した。
また機会があったら体制を整え挑戦したいと思う。

帰国の準備をして 11 時頃横部さんご夫妻がホテルに来てくれる。奥さんが習字の通信教育で其の作品を日本で投函してもらいたいとのことで、福澤君に託される。お土産まで頂き玄関前で別れ、我々はシャトルバスでシアトル・タコマ空港に向う。早速出国手続、ｅチケットでコンピータのチケットを確保し、荷物検査、私は 3kg オーバーなので荷物を分ければよいかと係員に聞けば分けろという指示、手続が済んで福澤君に聞いたら重量オーバーで７５ドルも取られてしまったとのこと、また、機内持ち込みの手荷物検査と身体検査ではバンドを外し、靴を脱いで靴下１枚でチェックが入る。

「世話になった Azumano の横部さんと」

記録　石川